

2024年3月期（第97期）

株主等との対話について

2024年5月22日

株式会社 河合楽器製作所

①株主等との対話の状況（2023年4月～2024年3月）

当社は、コーポレート・ガバナンス基本方針において「株主との建設的な対話に関する方針」を掲げており、株主総会のほか、決算説明会や個別IRミーティングなどを通じて、建設的な対話を実施しております。

内容	回数	対応者			対象
		社長	担当役員	IR担当	
決算説明会 (2023年5月・11月開催)	2回	○ ※1	○ ※2	○	証券アナリスト、機関投資家 (国内・海外)、その他
個別IRミーティング	73回	—	○ ※3	○	証券アナリスト、機関投資家 (国内・海外)、その他
個人投資家向け WEBイベント出展 (2024年1月)	1回	—	○ ※4	○	個人投資家

- ※1 河合 弘隆 前会長兼社長 2023年5月開催分出席 (当時 会長兼社長)
- ※2 河合 健太郎 社長 2023年5月・11月開催分出席 (当時 副社長)
- ※3 河合 健太郎 社長 計4回出席 (当時 副社長)
- ※4 河合 健太郎 社長 動画にて会社説明を実施 (当時 副社長)

②個別IRミーティングの内訳（実施回数）

- ✓ 当期は合計73回実施
- ✓ 国内証券アナリストからの取材が減少
- ✓ 国内、海外の機関投資家からの取材が増加
- ✓ 海外比率が増加（前期 = 16.9% 当期 = 27.4%）

	国内			海外		合計
	証券アナリスト	機関投資家	その他	証券アナリスト	機関投資家	
当期 (2023年4月～ 2024年3月)	16	33	4	1	19	73
前期 (2022年4月～ 2023年3月)	25	20	4	0	10	59
比較	△9	+13	±0	+1	+9	+14

③対話の主なテーマ、株主・投資家からのご意見

テーマ	ご意見
IR活動の強化について	割安な株価を放置せず、投資家目線で成長戦略をわかりやすく説明し、株価向上につなげてほしい。また東証要請（資本コストや株価を意識した経営）に対する開示を早期に行うべき
配当性向について	現中計最終年度で配当性向30%を目標としているが、目標としては物足りない。当期から30%を目指してほしい
財務の健全性について	ROEを高めるためには、純資産を増やしすぎないようにすべき
資本政策について	資本効率向上のため、株式の持ち合い解消や自己株式取得を検討してほしい
決算説明会について	海外からも参加できるように、WEBを活用してほしい
買収防衛策について	株価にネガティブな影響を与えるので廃止すべき

対話内容の社内フィードバック状況

- ✓ 株主、投資家からのご意見はIR担当者からIR担当役員である河合社長に、定例ミーティング等で随時報告しています。
- ✓ 取締役会において四半期ごとにIR担当者から対話の状況について報告、情報共有しています。

④対話の主な成果

テーマ	実施した内容
IR活動の強化	<ul style="list-style-type: none">・東証要請に対し「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」を開示（2023年11月、2024年5月）・個人投資家向けIRページを新設（2024年1月）・個人投資家向けIRフェア（WEBイベント）に初出展（2024年1月）・IRサイトで公開の決算資料の拡充（2024年5月）・株主との対話について開示（2024年5月）・英語によるコーポレートサイトを開設、英語版の決算短信を初めて開示（2024年5月）
配当性向	<ul style="list-style-type: none">・2024年3月期配当について1株当たり85円から95円に10円増配、配当性向は前期20.0%から29.5%へ向上・2028年3月期に総還元性向50%を目指す
決算説明会	<ul style="list-style-type: none">・97期末決算説明会について、会場開催に加え初めてオンラインを活用して開催（2024年5月）

今後も株主・投資家等と建設的な対話を継続し、具体的な経営戦略や経営計画について理解を得るとともに、いただいたご意見に対して適切な対応を講じ、企業価値の向上に取り組んでまいります。